

高校生ものづくりコンテスト2016東北大会

# せんばん 旋盤作業部門優勝

川俣高校機械科3年

# 今泉誠也さん

(館ノ腰・17歳)

## はじめりは ピンチヒッター

高校生ものづくりコンテスト  
2016東北大会旋盤作業部門で、見事に優勝した今泉誠也さん。

今泉さんが初めて同部門に出場したのは、高校1年生の県大会の時でした。出場する予定だった選手が出場できなくなり、急きょ出場することになったそうです。

「本当は先輩が出場する予定だったのですが、別な予定が入り、出場できなくなってしまう、最終的に私に声がかかりました。大会まで残り1か月しかなかったのですが、先生も必死でした。とにかく形だけでも作れるようになれと、とても厳しい指導でした。旋盤の指導は放課後にしてもらっていたのですが、授業中も作業工程を考えてしまったり、短い時間で学ぼうと私も必死でした。あの時は、とても大変だったというのが正直な感想です。今となってはあの指導が無ければ、今回の結果にはつながらなかったのでは、指導

いただいた先生には、本当に感謝しています」と今泉さんは話します。

今泉さんが出場した旋盤作業部門は、旋盤と呼ばれる金属を削り出す機械を使い、事前に図面にて示された3つの部品を2時間30分の制限時間内に作り、削り出しの正確さや速さなどを競う部門です。金属の削り出しは0.01ミリ単位での調整が要求され、卓越した技術はもちろん、旋盤のセンスも必要とされます。

## ものづくりに 囲まれた家庭で

今泉さんは、小さい頃からものづくりに身近な環境で育ちました。

父親が自動車整備工場で板金塗装を仕事としていたことから、自動車やバイクを整備する姿を身近で見れていたと言います。

「小さい頃から、父が車やバイクをいじっているのを見ていました。子ども

かなと関心がありました。また、兄が川俣高校に入学し、授業で作った鉄のかたまりなんかをよく家に持って帰ってきていたので、ものづくりに常に関心がありました。そんな中で、身近でもものづくりの技術を学べる川俣高校機械科への入学は自然な流れでした」と今泉さん。

旋盤の技術を指導している高橋豊先生は今泉さんについて「彼は、気さくでユーモアのある人間性豊かな生徒です。1年生の時の県大会への選出は、授業を見ていて彼がとても器用だと感じたためです。旋盤は誰でもできるわけではないので、センスもあつたのでしょう。経験と練習量、そして持ち前のセンスで今回の結果につながったのだと思います」と話します。

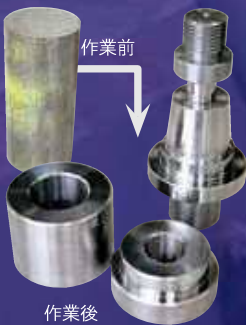
## 逃げてたまるか

### 真剣勝負

「本当は逃げたい気持ちもありまし

いをしてまで続けなくちゃいけないんだと思いました。でも、父から『ものづくりはそんなに甘いものじゃない。ここで逃げ出すのか』と言われたんです。ものづくりの現場で働く父に言われたその言葉を聞いて、納得したんです。そうだよな、簡単なわけがないよなど。そして、頑張っつて練習して、もう負けたくないと思いました。東北大会では手が震えましたが、なんとか優勝することができました。しかし、東北大会の作業中にはミスもあり、旋盤作業の内容には不満が残っています。11月の全国大会では、ノーマスで100点の作品を作ります。そして、優勝します」と力強く語ってくれました。

▼ただの鉄が今泉さんの旋盤作業でひとつの部品になる。



今泉さんの夢は、飛行機のジェットエンジンの部品を作る会社に入り、

# ものづくり で輝く 川俣町の 原石



▲真剣な表情で旋盤作業を進める今泉さん。感覚がものを言う。

ながらに機械をいじっている父がかっこいいなと思っていましたし、父がいじっている機械はどうやって使うのかなとか、あの部品はどうなっているの

た」と今泉さんは話します。「1年生の時の県大会では、練習する時間も短かったこともあり、結果はいいまいちでした。なんでこんな大変な思

ジェットエンジンの部品を作ることです。いつの日か、今泉さんが作った部品で組み立てられたジェットエンジンを積んだ飛行機に、今泉さんが搭乗している写真を撮影できることを、心から楽しみにしています！